

1 次の一、二の文章を読んで、あとの各問に答えなさい。

一 (鈴木孝夫『日本語と外国語』による。出題に際し省略をした部分がある。)

ある日のこと大学から戻った私に突然、家内が、「英語で太陽の色は何色かしら」と言った。私が「そんなこと赤に決まっているじゃないか」と答えると、「そうでしょう、でもうまく合わないのよ」と、新聞のクロスワード・パズルを持って来た。

太陽の色 (The color of the sun) というヒントに従って赤 (red) を入れると、文字欄が三つ余ってしまうというのだ。私は変だなあと言いながらも、思いつくままにいろいろな色彩名を入れてみた。すると黄 (yellow) なら上下・左右ともピッタリすることが分かったのである。私は変だなあと言いながらも、思いつくままにいろいろ

しかし太陽の色が黄色とは、どう考えても変だということで、さっそくアメリカ人の知人に電話をかけてみた。すると誰もが、黄色に決まっているじゃないか、どうしてそんな馬鹿なことを、わざわざ聞くのかといった調子なので、本当に驚いてしまった。

日本人である私たち二人の心の中には、小さな子供の頃から(白地に赤く、日の丸染めて、ああ美しや、日本の旗は……)の「日の丸」の歌をはじめ、白い御飯の真中に赤い梅干し一つの日の丸弁当、そして小さな子供たちの描く太陽の絵はみんな赤いクレヨンの丸だったことなどすべてが、太陽は赤いものという確信を育てていたので。それが黄色だなんて、それじゃ月じゃないか、というのが私たちの率直な反応だったのである。

ところで、英語で太陽が黄色ならば、フランス語やドイツ語ではどうだろうと、すぐ子供の絵本を開いたり、図鑑を出したりして調べてみると、ここでも太陽は黄色なのである。中には美しいレモン・イエローの太陽の横に、Le soleil est jaune. (太陽は黄色い) とか、Die Sonne ist gelb. (同上) とちゃんと書いてある絵本まで見つかった。

なんとも嫌なことは、私がこの時までこれらの本を見たことがないわけではないということである。自分に問題意識がないときは、せっかくの貴重な情報が目や耳に入っても素通りしてしまっているのだ。いつも思うことだが、人間の目や耳は、カメラやテープレコーダーとは違い、自分の持つ固有の文化で、与えられた生の情報の一部を消去したり、自分に都合のよいように曲げて解釈する強い傾向を持っているので、新しいことに、私たちはなかなか気付かない。古人のいう「見れども見えず、聞けども聞こえず」こそ、むしろ人間の正常なあり方だとさえ言えるのである。

(中略)

さて、言語社会学の調査などに無関係の読者の中には、大勢の人にアンケート用紙でも配って答を集計すれば、何語で太陽は何色だらけのことは、何も苦勞して何年もかけて調べなくとも分かりそうなものだと思われる方があるかも知れない。

しかし実際には、(1) とうとう簡単な理由がたくさんあるのである。たとえば、私がパリ大学でいくつかの連続講演をした時、主催者側の一人であったR教授が、私を食事に招待して下さい、そこに旧知のW博士も加わった。その際、私がフランス語の太陽の色はと尋ねたところ、お二人とも赤だといわれたのである。

パリ大学のようなフランスの国立大学には、国籍はいうまでもなくフランスで、学問も優れ、フランス語の運用は非の打ちどころなしという文句のつけどころのないフランス人で、実は生まれ育ったのは外国という人が大勢いる。私がこの二人のフランスの学者にフランス語での太陽の色を尋ねたのは、実は事前にR教授がロシア育ちで、W博士がポーランド出身だということを知ったことなのだ。お二人のそれぞれの母語では、太陽は赤だからである。無意識に染み込んだ文化は、なかなか変わらないのだ。

二 (エリン・メイヤー『異文化理解力―相手と自分の真意がわかるビジネスパーソン必須の教養』による。出題に際し省略をした部分がある。*の語句については後に注がある。)

たしかに、ひとりひとりに個性がある。そして、他文化の人々と働くときは、出身地によって各人の性格を決めつけるべきではないこともたしかだ。けれども、だからといって文化的コンテキストを学ぶ必要がないということにはならない。あなたの仕事の成功が世界各国の人々と上手に働く力にかかっているならば、個性の違いだけでなく文化の違いも理解する必要がある。どちらも重要なのだ。

この程度の複雑さは序の口だと言わなければ、文化や個性の違いは、組織や、業界や、職業や、集団の違いなどを伴うことが多い。しかしどんなに複雑な状況でも、文化がどのような影響を与えているかを理解することで新しいアプローチが可能になる。

(中略)

私はシェンと一緒に、中国の各地方でキャリアの大半を過ごしてきた様々な業種のヨーロッパ人マネジャーたちへ数多くの聞き取り調査を行った。彼らは中国という環境で成功するための方法について様々な意見を持っていた。そうした聞き取り調査のなかで、中国の繊維会社に勤め十五年以上現地で働くスペイン人の重役パブロ・ディアスはこう言った。

「中国では、表面上のメッセージは必ずしも本当のメッセージではありません。中国人の同僚たちが何かを遠回しに言って、私がそれを受け取れないことがあります。後になって、思い返してみると、私が大事なことを受け取り損ねていたと気づくのです」ディアスは中国人の社員とのやり取りを詳しく教えてくれた。

ディアス氏 我々を訪ねてくる*クライアントをもてなすために、何人かは日曜も出てこなきゃならないようだ。
チェン氏 そうですね。
ディアス氏 君は日曜に来れるかい？
チェン氏 はい、おそらく。
ディアス氏 それはすごく助かるよ。
チェン氏 はい、日曜は大切な日なんです。
ディアス氏 どういう意味だい？
チェン氏 娘の誕生日なんです。
ディアス氏 そうかそうか。みんな楽しんでるといいね。
チェン氏 ありがとうございます。ご理解いただけると嬉しいです。

ディアスはこの状況を振り返って笑う。「私はびっくり彼が [A] と言ったと思ったんだ」彼は言う。「そしてチェン氏はびっくり [B] と思っていたんだ」
ディアスは(2) とうとう行った行き違いを避ける方法をもつて学んだという。

*クライアント：客や依頼人のこと

問1 文章一の(1) とうとう簡単な理由の二つとして、筆者はR教授とW博士の例を用いどのようなことを指摘しているか、説明しなさい。

問2 文章二の(2) とうとう行った行き違いについて、次の各問に答えなさい。

- ① 行き違いの内容が明らかになるよう、文章二の [A]、[B] に入る適切な表現を考え、答えなさい。
② 文章一で述べられている内容にも触れながら、行き違いの原因を説明しなさい。